



気迫と根性 挨拶と礼儀
感謝の気持ちに
監督一筋30年



Hideo Okazaki

岡崎日出夫

オカザキクラブ
監督

石川県内で軟式野球に携わる人であれば、『オカザキクラブ』、『岡崎日出夫』を知らない人がいないほど、軟式野球の発展に貢献してきた岡崎監督。

岡崎監督は「自分が描く理想のチームを立ち上げたかった。発足時は13人。野球経験者はほとんどいない。そのメンバーで一致団結、気迫と根性で、北信越大会で優勝。まさか、発足1年目で全国大会

に出場するとは思わなかった」と当時の思い出を熱く語る。

『オカザキクラブ』は今年で30周年。これまでに、昭和55年能登で初めて『高松宮賜杯全日本軟式野球大会出場』や、



上／昭和55年全国大会に出場したメンバー。右／当時、監督兼選手（投手）として活躍する岡崎監督。



平成10年七尾市で初めて『七尾市内大会完全制覇』。また、チームを持ち、30年間監督を続けた人は石川県内初など、数々の偉業を成し遂げてきた。「クラブチームとして、オカザキクラブが30年も続けられたのは、家族や友人、会社の人など、すべての人の支えがあったからこそ。また、わがままな監督について来てくれた選手たちに感謝したい」と話しながら感極まる場面も。取材を通して、最近少なくなった『頑固で一途な親父』を感じさせ、『生涯野球人』として、今後も高い理想を追い求める岡崎監督が魅力的に感じた。



ひらた あゆみ
平田 歩さん
(24歳・三室町)



このコーナーでは、まちのフレッシュさんをリレー方式で紹介し
ます。平田さんは前回の橋屋さんの紹介です。

リレーで紹介

フレッシュさん



「小さい頃からあ
こがれたった」。
小学校の文集に
も、将来は保育園
の先生になりたい
と書いてあったと
明かしてくれた。
西湊保育園で働い
て今年で4年目。高校卒業後は、毎日
自宅から白山市の短期大学へと通っ
た。「この仕事をしたいと思ったとき、
自分が小さい頃育った七尾の自然が
思い浮かんだ。地元で働くことはご
く自然なことだった」と話す。
楽しいばかりの仕事ではないこと

も自覚し、「自分で決めた道なので、
これからもこの道でがんばりたい」と
信念は強い。人間相手の仕事だけに
「中途半端な気持ちではできない。責
任はあるけどやりがいもある。保護
者から感謝されるとやっぱりうれし
いし、もつとがんばろうと思う」と、
熱意は尽きない。
休日は友達と過ごすことが多く、
「何気ない時間だけど、自分にとって
は大切な時間。友達のがんばりは刺
激になる」と前向きだ。「これからも
子どもの成長の手助けができれば」と
最後まで目線は変わらなかった。

リュウ エンヂ
劉衍智さん

(27歳・山王町)

出身地 中国大連市



**思えば遠くへ
来たもんだ**

中国から新しい国際交流員がやつ
てきた。神奈川大学に留学経験(4
年間)があり、流暢な日本語で初対
面の人に冗談を言うほど、明るく積
極的に話をしてくれるリュウさん。



このコーナーでは、県外から市内へ転入された人
の声を紹介します。

「どうして日本語を？」と聞くと「日
本や日本語を知れば、自分自身のチャ
ンスが生まれる。けど、一番はキム
タクが好きで始めました」とはにか
む表情で話しながらも、キムタクの
マネまでしてくれ、周囲の人たちを
笑わせた。

また、リュウさんは2年前に結婚
したばかり。「奥さんは中国にいるの
で寂しいけど、奥さんからは素晴ら
しいチャンスだから行って来てと言
われました」と顔を赤くする一面も。
「七尾市民として皆さんと付き合いた
いです。市民の皆さん、街で見かけ
たら、ぜひ声をかけてくださいね」
と七尾市での生活に意欲を見せた。